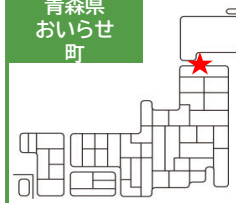


「誰もが地元で安心して暮らし続けられる地域づくり」を目指して取り組む。現在では年間40万人以上が訪れる県内有数の観光スポット。障害者・高齢者の活躍の場、更には地域の交流拠点として活躍。

福祉事業所

青森県
おいらせ町



基本情報

設立:H20年 / 農福連携取組開始:H20年

取得認証等:認定農業者(R6)

農山漁村振興交付金(農福連携型)(R2年度)

主な選定表彰:令和2年度ディスカバー農山漁村の宝「コミュニティ部門」等

概要

主力商品

(農作物)小麦(もち姫)、菊芋、いちご、南国フルーツ等
(加工品)ピクルス、ドレッシング、ふりかけ、漬物等

特徴的な取組
6次産業化

きっかけ

H20年

「地域における障害者の活躍の場・雇用の場」を作りたいとの想いから、本格的に農業生産と6次産業化に着手。

人を耕す

- 観光農園という集客スポットで働くことは、常に客に見られている緊張感があり働く人たちの自立心も自然と向上していく。
- 自らの能力とペースで仕事をこなし、達成感ややりがいを得ながら働けるよう、農業を含めた様々な職種の従事者が障害者が共に働き、支援・連携しながら作業を行っている。

地域を耕す

- 休耕地の活用と地域の取組として、もち性小麦の栽培に取り組み、地元生産者、行政、県立保健大学、福祉施設、加工業者等と多様な連携を図りながら地域の取組として展開している。
- 収穫された小麦は、地元を中心に普及を図り取扱店舗は21店舗、40種以上の新商品が開発・販売されるようになり、食材としても学校給食や福祉施設で採用されている。
- 町内の直売所のふるさと味の研究会(高齢農業団体)と連携して菊芋の栽培と商品開発。

未来を耕す

- 地元の公立大学生と地域おこし協力隊等から協力・助言を得て、菊芋の「ピクルス、ドレッシング、ふりかけ、漬物」等の全9種類の新商品を開発、直売所で販売。
- 商品開発では、利用者が生産した菊芋を、地元高校と提携。機能性食品、地元特産品として魅力を引き出すようレシピの開発。販路拡大として、地元学生とテストマーケティングを実施。

取組

成果

平均工賃月額

25,066円(R2)
→50,163円(R6)

障害者数

26人(R2)
→52人(R6)

工賃総支給額

14,822万円(R2)
→18,540万円(R6)
※農福連携以外も含む

農地面積

5.34ha(R2)
→5.34ha(R6)

- 新鮮な農産物を収穫できるビニールハウスやパン工房では、開店準備や調理補助、収穫作業など職種は多岐にわたり、一人一人が抱える症状に合わせて仕事を調整しているので、自らの能力に合わせた仕事を日々こなし、達成感や生きがいを得ながら働く大切さを得ている。
- 水耕栽培システムによる西洋野菜のハウス栽培では、風雨に影響されずハウスの仕様(装置レイアウト、作業性の確保)や栽培作業の視覚化がされているため、現在では、収穫、選別作業など障害者だけで管理が可能になっている。

体制図

【観光農園アグリの里おいらせ】

・株式会社アグリの里
おいらせ(農業法人)
・工房あぐりの里(福祉
サービス事業所)
・NPO法人平成謝恩会
(地域貢献)



ふるさと味の研究会
(高齢農業者団体)
地元農業者
地元公立高校

農作業委託・加工品の共同開発他

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	○

住所:青森県上北郡おいらせ町向山東2丁目2-1684

TEL:0178-20-0670

Mail:seiyuu18@kizakinousou.jp

URL:info@agurinosato.jp

特別支援学校の生徒の就労実績あり / 特別支援学校等の現場実習受入れ:可 / 視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可
特別支援学校における校内実習や作業学習への支援(体験の場の提供、農業に関する技術的な助言等):可



農作業(稲作)や木材加工、漁具の修繕など、農福・林福・水福連携に取り組み、県平均を上回る工賃を実現。

基本情報

- 所在地：青森県平内町
- 団体名：社会福祉法人
青森県すこやか福祉事業団
就労サポートセンターさつき
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品等：米、もち米、木材加工、
漁具補修
- 取得認証



就労サポートセンターさつき（就労
継続支援A型、B型、就労移行支援）

取組の概要

- 平成23年に10年以上休耕地となっていた水田の貸借契約を進め、利用者の就労の場の安定化や工賃向上を目指し水稻栽培事業を開始。
- 周辺地域の遊休林や敷地内外の伐採依頼を請け負うことにより、景観の保持や地域住民との信頼関係の構築につながっていると同時に、安定した作業と工賃確保の為、近隣の薪ストーブ販売店と提携し、薪材生産を実施。
- 漁業が地域における生活の要となっているが、高齢化や後継者不足による身体的負担が課題となっていた為、漁具修繕等の軽作業を請負う事で漁師の負担軽減と障害者の就労機会の確保を実現。



地域就農経験者を交えた農作業



遊休林伐採依頼の請負



ほたて漁具の修繕作業

体制図

青森県すこやか
福祉事業団

就労サポートセンターさつき

(株) 城ヶ丘観光

(株) 魚国総本社

(株) ぐるめ

薪ストーブwood rack

平内町漁業協同組合

A & Tひらないアグリ

取組の成果

- 地域の水田の90%以上を借入れ、事業所が地域農業の担い手となっている。
- 農作業に関わる障害者数は、取組当初の4名(平成24年)から21名(令和5年)に増加。
- 平均工賃月額は取組当初の14千円(平成24年)から29千円(令和5年)に上昇。

所在地 ▶ 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字向田24

連絡先 ▶ TEL:017-755-5113 E-mail:saposeen03@syuusapo.com

ウェブサイト ▶ www.syusapo.com

【取組のプロセス】

昭和51年

法人の設立

平成23年

水稻栽培の開始

平成24年

旧平内町立茂浦小学校校舎を借入れ「就労サポートセンターさつき」を開設

水稻栽培を引継ぐ

令和元年

薪材生産・販売を開始

令和5年

今後の展望

きっかけ

地域の水田が10年以上休耕地となっており、景観保持の観点から稲作の再開を望む声が多くあげられていたことから農福連携の取組を開始

水稻栽培の開始〈平成23年4月〉

- 農業委員会、地権者との相談を重ねながら荒廃農地の貸借契約を進め「障害者総合福祉センターなつどもり_林産班事業」として水稻栽培を開催。

漁具修繕等による漁具加工作業を開始〈平成24年4月〉

- 地域の漁業者及び漁業資材加工業者より漁具加工作業の請負を開始。

就労サポートセンターさつきを開設〈同年8月〉

- 就労サポートセンターさつき(就労移行支援・就労継続支援B型事業)を開設。
- 水稻栽培事業を引継ぎ、農業を開始。
- 就業継続支援A型事業を開設〈平成27年4月〉(令和5年3月廃止)。
- 収穫期には地域住民を招待しながら大収穫祭を実施し、利用者と地域住民の交流を図る。
- 漁具修繕の請負や地域内海水浴場の清掃を続けることで、地元の漁師と利用者との関わりが多く持たれるように工夫。

薪材の生産・販売を開始〈令和元年12月〉

- 青森県農福連携マルシェに参加し、利用者と共に生産した米と薪材を一般向けに販売



農福販売イベントでの薪材の販売

施設外就労開始〈令和5年8月〉

- 地元企業「A&Tひらないアグリ」から「青森きくらげ」生産行程の一部を請負い、農連携技術支援者育成研修を受講した職員の支援のもと、障害者が地域産業の担い手となっている。

障害者の「働きたい」を積極支援

- 豊かな自然の下、地域の伝統や産業と協調しながら地域活性化に貢献する事を目標として一丸となって取り組む。
- これからも変化には変化で対応し、小さな発想を大きく議論し合いながら全員が成長し、障害者の「働きたい」を積極的に支援。



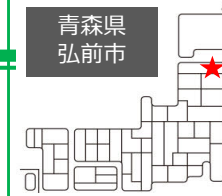
収穫米を使用した地域との交流(大収穫祭)



地域の海岸清掃



売れる喜びが作る喜びに



多機能型事業所「就労サポートひろさき」では、平成19年の開設以来知的障害などを持つ施設利用者が、主にりんご生産法人への施設外就労により、通年で栽培作業等を実施。

基本情報

- 所在地：青森県弘前市
- 団体名：社会福祉法人七峰会
- 選定表彰：－
- 主力商品：メロン
- 取得認証等：－



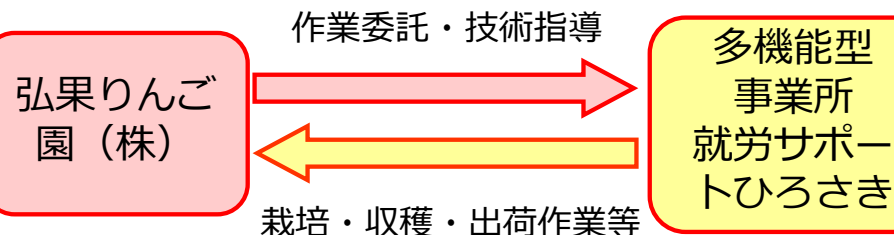
取組の概要

- 「弘果りんご園(株)」等から作業を請け負い、障害者が施設外就労でりんごの栽培を実施。また、障害者就業・生活支援センターからの紹介により、ピーマン等を生産する農家1か所からも作業を請け負っている。
- 障害者は葉摘みや収穫した果実の運搬作業、リンゴの箱詰作業、収穫用コンテナの洗浄のほか、比較的難度の高い1次摘果作業も実施。
- 弘果りんご園(株)の作業員から技術指導を受けるほか、障害者が市内りんご生産法人に実習生として通い、技術の向上を図っている。
- 令和4年からは弘前中央青果(株)と連携し、メロン栽培にも取り組む。



秋の収穫作業の様子

体制図



取組の成果

- 高齢化、人手不足等によりりんごの生産量低下や周年出荷への不安を抱えているが、多くの障害者が携わることで、地域における担い手となっている。
- 令和5年度は6名の利用者が実習先である弘果りんご園(株)でりんご栽培に取り組んでいる。
- 栽培したメロンは地元ブランドである「つがりあんメロン」として、市場に出荷し、好評を得ている。

所在地 ▶ 青森県弘前市熊嶋字亀田184番地1

連絡先 ▶ TEL:0172-82-5770 E-mail:support.h@xvb.biglobe.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.takushinkan.jp/1137.html>

【取組のプロセス】

「就労さばーろひろさき」を開所し、開設当初から農業を職業訓練の一環として実施

平成19年

きっかけ

職業訓練の一環として農福連携に取り組んでいたが、弘前市が掲げた「多様な人材の自立支援による地方創生計画」により、障害者の働く場として農業が注目され、これを機に関係機関と連携してりんご園での施設外就労を本格的に開始

働き手の減少
福祉のマンパワー
の活用

平成28年

「農福連携」のモデル事業を開始

- 平成28年に市が掲げた「多様な人材の自立支援による地方創生計画」により、障害者の働く場として農業が注目され、障害者の働く力と可能性をりんご産業に生かしていこうという機運が高まったことを機に、弘前市自立支援協議会の就労支援部会、弘果りんご園(株)と連携して、「農福連携」のモデル事業が開始。

農福連携のモデル
事業を開始

平成29年

農作業指導

- りんごの作業内容は、摘果、摘葉、収穫、果実の運搬作業等があり、農業従事者は障害者への接し方や指導方法について不安を抱いていた。
- 障害者も様々な困難を抱えていることから、個別的な支援が必要とされるため、作業の技術指導を受けた福祉職員が間接的に関わって作業指導を行うことで、それぞれが抱える不安を解消し、効果的に作業を進めることが可能となった。

弘果りんご園のスタッフからの技術指導

やりがいの向上
給料アップ

令和3年

担い手不足の一助に

- 継続して作業に携わることで障害者の作業技術の向上と、仕事に対する自信とやりがいに繋がっている。
- 仕事ぶりから信頼を得ており、作業依頼が年々増加傾向にある。
- 令和4年からは弘前中央青果(株)と連携し、メロン栽培にも取組、栽培したメロンは地元ブランドである「つがりあんメロン」として、市場に出荷し、好評を得ている。

令和4年

農業者と障害者の
マッチング

今後の
展望

win-winな関係に

現在、弘前市では就労支援窓口（JA等）の活用による情報の収集とデータベース化を実施しており、障害者の就労環境の向上に向け、レベルアップ研修会や現地検討会の開催、農福連携推進セミナーの開催等、障害者が働きやすい環境づくりを目指し、様々な取組が実施されている。



福祉職員が作業状況を確認



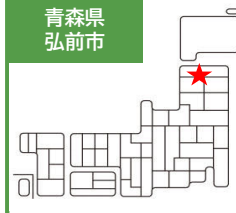
技術の向上



りんごの収穫

農業者と障害者等のマッチングに取り組み、独自のマニュアルや支援制度等を整備。不登校傾向等にある児童生徒や特別支援学校の生徒向けの農業体験も実施。

地方自治体

青森県
弘前市

きっかけ

H
31年

弘前市のりんご園で蔓延したりんご黒星病について、労働力不足に対応しきれなかった農家と福祉事業所が連携して対応したことがきっかけとなり、市として農福連携を後押し。

人を耕す

- 農業者から作業の留意点や細分化の内容を聞き取り、R5年度に独自の「農福連携実践マニュアル」を作成。りんご作業16項目について、農業者が作業依頼する際のアドバイス等を掲載したほか、作業細分化により、障害者が従事可能な作業を整理。
- 農作業に引率する支援員には、農作業の指示だけでなく、安全管理等が適切に行われるよう指導。

地域を耕す

- 農福連携の普及のため、市独自の支援制度として、R5年度から新たに農福連携に取り組む農業者を支援する「お試しノウフク」、障害者の農作業の様子や受入れの工夫を発信する「シェアノウフク」、特別支援学校の生徒に対する農作業体験を実施。
- R6年度からは新たに不登校傾向にある児童生徒に対する農作業体験を実施。

未来を耕す

- マニュアル作成などの取組が注目され、県内外からの行政関係者や大学等の視察が増加。併せて、県主催の研修会などに講師として招かれる機会も増加。
- 室内でりんごの袋掛けを練習できるキットを福祉事業者へ貸し出しており、事前練習により心理的負担の軽減につながっていると好評を得ている。

基本情報

農福連携取組開始：R元年

取得認証等：SDGs未来都市

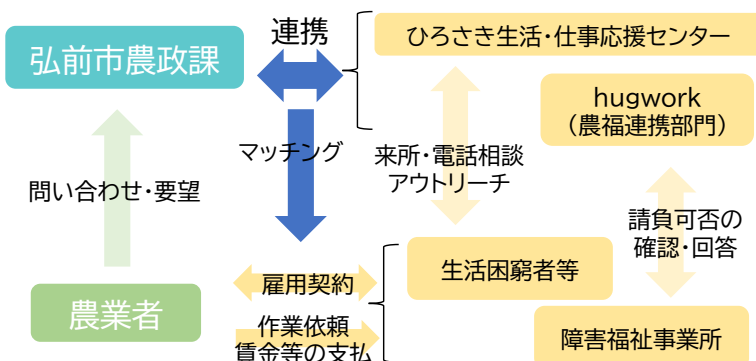
概要

主力商品
(農作物)

りんご、ピーマン、トマト、ミニトマト、落花生、えだまめ、にんにく

特徴的な取組
中間支援

体制図



TEL/0172-40-7102 Mail/nousei@city.hirosaki.lg.jp

視察受入れ：可 / 報道機関受入れ：可

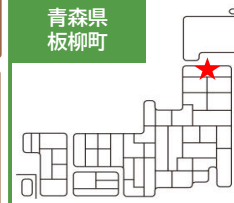
成果

農作業に関わった障害者数	農福連携の支援制度を活用した農家数	農福連携で実施した作物数	農福連携で実施した作業内容
24人(R元) →2,426人(R5) ※年間のべ人数	2人(R元) →20人(R5)	1種類(R元) →7種類(R5)	1作業(R元) →31作業(R5)

- 支援制度を活用して農福連携に取り組んだ農業者はのべ60名となり、事業終了後も短期雇用を継続しており、農家2戸が障害者計4名を常時雇用。
- 農福連携の推進により、障害者が作業しやすいよう、新たに加工用りんごのほ場を整備する農業者や、省力樹形である高密植栽培を行うほ場での作業を依頼する農業者もいる。
- 市内農業者が市外の福祉事業者と連携するなど、地域外とのつながりを創出。
- 障害者がりんごの栽培からジュースのラベル貼り、販売まで携わるなど、6次産業化の事例も確認。

耕作放棄地を活用し、AIによる自動灌水・施肥システムで作業の効率化を図りながら、高品質な果物や野菜を生産。施設外就労による複数の地域農家との農福連携やノウフクJASの活用を通じて、高賃金を実現。

福祉事業所

青森県
板柳町

基本情報

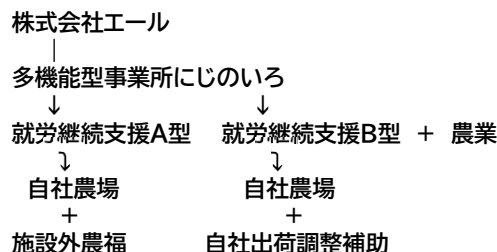
設立: H27年 / 農福連携取組開始: H29年
取得認証等: 認定農業者(R6年)、ノウフクJAS(R4年)
農山漁村振興交付金(農福連携型)(R1~R2年)
主な選定表彰: ディスカバー農山漁村の宝(第10回/東北)

概要

主力商品
(農作物)ピーマン、シャインマスカット、メロン 等

特徴的な取組
スマート農業

体制図



住所: 青森県北津軽郡板柳町大字横沢字東宮元12-12
TEL: 0172-55-6682
Mail: info@nijino-iro.jp
URL: https://nijino-iro.jp/

きっかけ

H
29
年

JAからのピーマン栽培支援依頼を機に農業へ参入。難しい水と肥料の供給をAI自動灌水・施肥システムの導入で対応し、自社栽培を開始。農家との連携も拡大中。

人を耕す

- 作業の細分化やスタッフの農作業理解度の向上により、作業環境を改善し、障害者の体力と自信が向上。複数農家との連携が実現し、平均賃金向上と利用者の技術習得につなげる。
- 施設外就労先の農家に些細なことでも褒めるようお願いし、利用者の自信向上と農家との信頼関係構築を実現。

取組

地域を耕す

- JAから営農組合のニンニクの芽出し作業を依頼され、高評価を獲得。新たなリンゴ栽培の作業依頼につなげる。弘前市からも農家を紹介され、契約を結ぶなど地域との連携の場を拡大。
- 青果市場と連携し、耕作放棄地を活用した里芋の実証栽培に挑戦。
- 地域のノウフクマルシェに参加し、ノウフクJAS認証のピーマンやシャインマスカットを販売。地域との交流を深めた。

未来を耕す

- 耕作放棄地を活用し、全自動灌水・施肥システム「ゼロアグリ」を導入したシャインマスカット、メロン栽培を開始。作業の効率化と品質向上による収益増を実現。また、AI管理によりメロンのネットが均一に仕上がるとの評価を得て、県内農家や大手企業からも注目を集める。
- ノウフクJAS認証の青森県産ピーマンとして秋田県スーパーに出荷。信頼性と話題性で売り上げも良く、単価アップにより収益向上が実現。

成果

平均賃金月額

67,000円(R2)
→85,000円(R6)

農作業就労数

2人(R2)
→9人(R6)

売上高

90万円(R2)
→980万円(R6)

農地面積

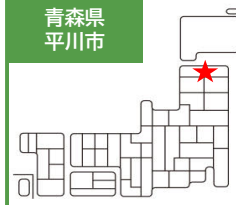
0.3a(R2)
→2.8a(R6)

- スタッフが農家へ実習に赴き、障害特性に応じたワーキングメモリーを意識しながら、作業の細分化とシミュレーションを実施。利用者の自信向上と、農家が納得できる作業提供を実現。
- 作業を細分化し、できることから着実に取り組むことで、障害者は自身が向上し、障害者の受入に抵抗のあった農家や地域の理解も進んだ。
- 特別支援学校生徒の見学体験会を実施し、ピーマンの収穫や出荷調整等体験を通して交流。利用者にとっても、教えるという新たな経験を積んだことで、成長の機会となった。

福祉と地域が連携し、希少な津軽漆の苗木生産から加工・販売まで一貫して行う取組により、障害者の就労、工賃向上、一般就労の機会創出とともに、持続可能な地域づくりと伝統文化の継承に寄与。

福祉事業所

青森県
平川市



基本情報

設立: H25年 / 農福連携取組開始: R3年

取得認証等: 農山漁村振興交付金(農福連携型)(R4~5年)

きっかけ

R3年

荒廃農地や放置山林の増加により、国産漆の自給率低下と伝統工芸「津軽塗」の危機が深刻化する中で、農福連携を開始し、持続可能な地域づくりと伝統文化の継承に取り組む。

人を耕す

- 利用者別の評価シートを半年ごとに見直し、工賃向上につなげている。
- 苗育成、植林、営業、講師、接客、ものづくり班を設け、適性に合った作業を選定。日替わりリーダーに外部対応や指導を任せ、責任感と自信を育成。リーダーの働きは、工賃に還元。
- 外部講師を招いての作業マニュアルの作成、治具を用いた作業難易度の調整、通所困難な難病者にも在室で作業参加できる仕組みの構築など安全で働きやすい職場環境を整備。

地域を耕す

- 年間1,000本の漆苗を安定生産し、販路を確保。副産物を活かしたアップサイクル製品で高収益を実現し、津軽塗産業との協働で観光客や漆文化の関心のある層に訴求。
- 荒廃農地や伐採後の山林を林業会社や学生とともに整備し、漆林へと再生。短期間で収益化が可能な漆を用いた山づくりを提案し、農林資源の活用と地域課題の解決に貢献。

未来を耕す

- 苗木生産から加工・販売までを一貫して行い、津軽塗とのコラボや外部講師の協力によって高付加価値な製品を創出。精神障害者にも良好な効果があり、定着率も向上。
- 取組内容はSNSやメディア、CMで積極的に発信し、全国から視察者が訪問。作業マニュアルや治具などの工夫は他団体にも応用可能。

取組

成果

概要

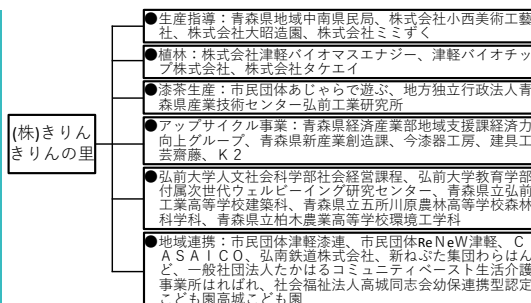
主力商品

(農産物) 漆苗
(加工品) 漆茶

特徴的な取組

林福連携、ユニバーサル農園

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

平均工賃月額

11,286円(R3)
→20,825円(R6)

作業に関わる障害者数

3人(R3)
→20人(R6)

荒廃農林地の解消

0ha(R3)
→1.5ha(R6)

農地(栽培)面積

1㎡(R3)
→10㎡(R6)
※ポットレストレイで漆苗を栽培

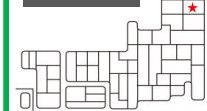
- 植林作業での評価が自信につながり、就労移行支援や一般就労への移行を実現。ものづくり作業をきっかけにイラストレーターとして開業した者や、職業訓練校に進学した者も輩出。
- 桜まつりや社協まつり、地域フェスタ、津軽塗フェアなどのイベントへの出店や展示会、講師活動などを通じて地域との交流を深め、コミュニティの維持・活性化に貢献。
- 企業、学校、行政へと連携を広げ、多世代・多分野での協同を推進。漆を通じた出会いから市民団体設立に至るなど、地域活性化の新しいモデルを構築。

住所: 青森県平川市中佐度南田18-20

TEL: 0172-88-7656

Mail: kirin@kjb.biglobe.ne.jp

URL: <https://kirinnosato.official.ec/>



農業法人として葉物野菜の周年栽培を実施する中で、人手不足から施設外就労として地域の就労継続支援B型事業所に葉物野菜の栽培・調製作業を依頼することにより、経済活動と社会貢献の両立を実現。

基本情報

- 所在地：岩手県花巻市
- 団体名：株式会社耕野
- 選定表彰：－
- 主力商品：葉物野菜（ベビーリーフ etc.）
- 取得認証等：JGAP



取組の概要

- 平成24年2月に農業法人として設立し、温室ハウス内での水耕プラントを活用したベビーリーフ等の葉物野菜の周年栽培を開始し、飲食店向けの業務用葉物野菜を中心に生産。
- 岩手県主催の商談会において農福連携に取り組むことを勧められたことから取組を開始し、当初は簡単な収穫後の残渣回収などの作業委託をしていたが、今では播種、定植、収穫、計量、包装までの生産全般を障害者が担っており、貴重な人材となっている。
- 現在、農業等に関わっている雇用者又は利用者数は20名となっている。
- 専門家による「障害者特性」について学ぶ研修会を開催し、障害についての意識を深め、関わり方や接し方などについて理解を深めるなど、スタッフの意識付けに取り組む。



ホワイセリリの収穫と下葉処理の作業

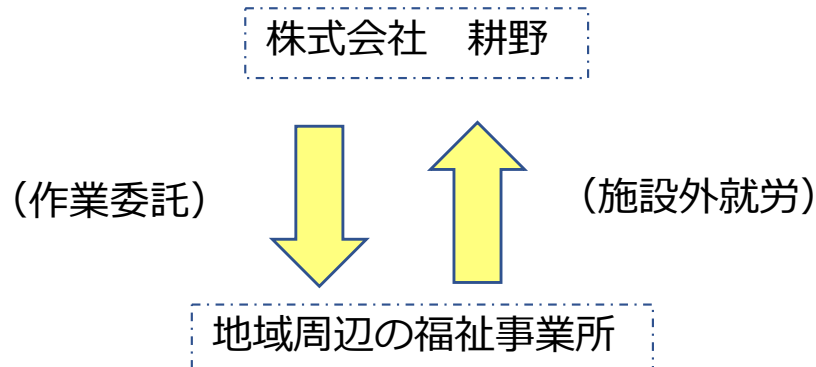


収穫後の残渣回収



メンテナンス作業

体制図



取組の成果

- 作業に余裕が出来たことにより、生産面積の拡大や、新品種の導入への研究開発の時間が確保でき、収益の向上につながっている。
- 障害者の視点に立った作業の見直しや、安全面での改善が図られたことで、従業員等の作業環境全般についても改善され、JGAPの維持管理にも好影響を与えている。
- 農福連携に取り組むことで、県や市町村主催の農福連携セミナーに講師として呼ばれ、福祉関係団体との交流や情報交換の機会が増えたことで、新たな連携が生まれている。

所在地 ▶ 岩手県花巻市太田64-184

連絡先 ▶ TEL : 0198-29-5558 E-mail : info@kouya-leaf.biz

ウェブサイト ▶ <https://kouya-leaf.biz/>

【取組のプロセス】

平成24
年

きっかけ

株式会社耕野は働き手の確保を模索していた中、岩手県のマッチング商談会において農福連携を勧められたことから福祉事業所への作業委託を開始

株式会社耕野を設立し、起業開始

岩手県「食の産業クラスターネットワーク」のマッチング商談会を活用

平成25
年

株式会社耕野を設立

- 平成24年2月に株式会社耕野を設立し、温室ハウス内での水耕プラントを活用したベビーリーフ等の葉物野菜の生産を開始。飲食店向けの業務用の葉物野菜を中心に生産拡大を図る。



野菜の種類により
手作業での定植

平成31
年

ベビーリーフ等の周年生産を開始

- 平成25年3月に温室ハウス1号棟（12.72 a+水耕プラント設備）を建設し、ベビーリーフ等の周年生産を開始。
- 平成28年4月に温室ハウス2・3・4号棟（15.84 a×3棟）を建設。
- 平成31年1月 JGAP（青果物）認証農場 認定（登録番号 030000006）

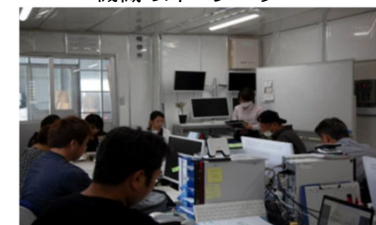


水耕栽培用の自動定植
機械のオペレーター

温室ハウス敷地に
出入りする福祉事
業所の名前が入っ
た車両が地域への
PRを担う

農福連携の取組を開始

- 岩手県主催の商談会にて、岩手県社会福祉協議会のコーディネーターから、水耕栽培は1年を通じた作業があることから、農福連携への取組を提案され、地域の福祉事業所から障害者の試験的な受け入れを開始。
- 社会福祉協議会や福祉事業所と定期的に会議を開催し、課題点、改善点を話し合ったことで、障害者を受け入れることへの不安が解消され、障害者が農業の働き手になると確信したため、本格的な作業委託を開始。



社内での障害者特性に
ついての定期研修

今後の
展望

経済活動と社会貢献の両立

- 様々な個性を持つ障害者に分かりやすいよう、今後は作業の平準化やマニュアル化を進めることにより、収益性と障害者の働きがいとを両立した労働環境整備や生活支援にも目を向けることで、農業生産性の向上と労働力の確保、定住人口の確保に繋げる。
- 日々、作業改善の連続であるが、障害特性に合わせた環境で淡々と作業を行うことができる障害者など、お互いの課題解決に近づける可能性を感じる。今後も地域の福祉事業所や関係機関との連携を図りながら、「農福」の連携に取り組む。



地域の農業法人と連携し、障害者一人一人に合った農業・漁業の就労機会を提供することによって、障害者が地域産業の重要な担い手として定着。

基本情報

- 所在地：宮城県松島町
- 団体名：一般社団法人松島のかぜ
- 選定表彰：ノウフク・アワード2020
優秀賞
- 主力商品：生かき、水稻、さつまいも、かぼちゃ、トマト、きゅうり、なす、玉ねぎ 等
- 取得認証等：－



取組の概要

- 「一般社団法人松島のかぜ」は、就労継続支援A型事業所として、障害者が自立した社会生活を営むことが出来るように、一般就労に必要な知識や能力向上に必要な訓練を適正かつ効果的に行い、主に農業・漁業を通じた就労の機会を提供。
- 現在、身体・知的・精神障害を持つ17名（定員20名）は有限会社F・F磯崎が経営する農地（60ha）と牡蠣養殖場（むき身10tを生産）で就労。地域のベテラン農業者なども参加して障害者と共に農作業等を行っており、地域産業の重要な担い手として定着。
- 宮城県庁での産直販売会では、障害者が自ら育てた米や野菜、生牡蠣を対面販売するほか、地域のJAや漁協のイベントでの出店では、牡蠣ご飯や焼きハゼなどの調理販売も行う。



田植えの苗補給作業



きゅうりの袋詰め作業



農作業のあと、地域の方々と記念写真

体制図

一般社団法人
松島のかぜ

連携

有限会社
F・F磯崎

業務委託

地域の中小企業、
団体など



取組の成果

- 利用者が安定的な就労者となることで、地域の農業と漁業の産出額は震災以前のレベルに回復し、その再生に大きく貢献。
- 農業漁業の他に配達作業などを通じて接客術も学んでおり、これまでに14名が一般就労に移行。
- 農業・漁業の年間を通じた作業により、1日4時間勤務ながら利用者は安定した賃金（月額7～8万円）を得ている。

所在地 ▶ 宮城県宮城郡松島町磯崎字釜12

連絡先 ▶ TEL：022-352-3256 E-mail：matushimanokaze@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://matsushimanokaze.com>

【取組のプロセス】

平成25年

震災により、離農が続出し、半農半漁を生業としていた磯崎集落は、極端な労働力不足

きっかけ

震災後の農漁業復興のため、松島町と宮城県の指導を受けて設立

就労継続支援A型事業所として漁業法人に労力提供開始

- 東日本大震災により松島町内で働く障害者のほとんどが失業したこと、また震災をきっかけとした離農と労働力不足が背景となり、松島町と宮城県の指導を得て就労継続支援A型事業所として平成25年8月1日に設立し、利用者は農業法人である有限会社F・F磯崎が経営する農地や牡蠣養殖場で就労。



宮城県庁での産直販売

平成29年

優良な職業訓練の場として町内外に広く認知されている

一般就労への移行者、1人目が誕生

- 就労に必要な知識や能力向上に必要な訓練を適正かつ効果的に行い、一般就労への移行に向けて支援を実施した結果、平成29年4月に1名が一般就労に移行。
- また、近隣の閉鎖される就労継続支援A型事業所から5名を受け入れ。



ひとめぼれの精米袋詰め作業

令和5年

一般就労への移行者、14人目を達成

- 就労継続支援A型事業所を設立して10年が経過し、利用者は農業漁業の作業技術だけでなく、産直販売会やイベント出店、ホテル・旅館・飲食店への配達作業などを通じて接客も学んでいる。これまで14名を一般就労に送り出しており、優良な職業訓練の場として町内外に広く認知されている。



青森県への1泊研修旅行

今後の展望

安心して楽しく健康的に働ける最高の環境作りに注力

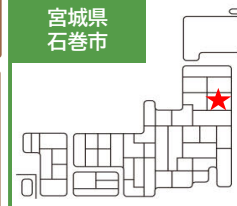
- 農業と漁業のそれぞれの分野で年間を通して様々な仕事があるので、障害者の一人一人に合った仕事を提案している。
- 自分たちが作ったものがたくさんの人たちの食卓にならび、体をつくり、笑顔や命を支えているつながりを感じることができる。
- 連携しているF・F磯崎と共に、地域交流イベントに出店販売等で参加し、地域活性化に大きく貢献している。



仲間と働く感想を語る利用者

多様な人が関われるソーシャルファームを理念とし、ホップ、サツマイモの農作業、6次化商品等を通じて、誰もが豊かに暮らせる地域での生活づくりに寄与。

その他

宮城県
石巻市

きつかけ

H
31
年

農作業を通じた心のケア事業などの経験を踏まえ、多様な人が関われるソーシャルファームを理念とした農業の担い手育成事業としてスタート。

人を耕す

- 令和4年までは中間就労支援を実施。毎週3名(生活困窮者、ひきこもり等)が、農作業を通じた就労プログラムに参加し、訓練日当(最低賃金以上)を支給。
- 令和5年からは直接雇用に変え、ホップ、サツマイモの農作業、6次化商品、ビール関連事業、石巻市街地でのマルシェの運営等、幅広く様々な業務を掛け合わせた障害者雇用での働き方を実践。

地域を耕す

- 東日本大震災による津波被害を受けた荒廃農地を再生し、ホップ、さつまいもを栽培。
- 醸造所を設置し、自社栽培ホップを使ったクラフトビールを自ら製造、販売を開始。
- 乾燥ホップと市内社会福祉法人が製造する塩を使用した巻風ホップソルトと、自ら生産したサツマイモを活用した干し芋の製造販売により収益向上を目指した取組を実践。

未来を耕す

- 滞在型農業体験プログラムを実施し、就農体験できる体制づくりとして、市内2カ所にシェアハウスを設置。
- 平成30年から人材不足に悩む農家をサポート、新規就農の移住を実現する等、新規就農者と定住支援を継続。
- 食品メーカーからの出向を受入れ、6次化商品の開発、販路拡大を強化。

基本情報

設立:H28年 / 農福連携取組開始:H31年

取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R2年度)

主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝(第10回/全国)等

概要

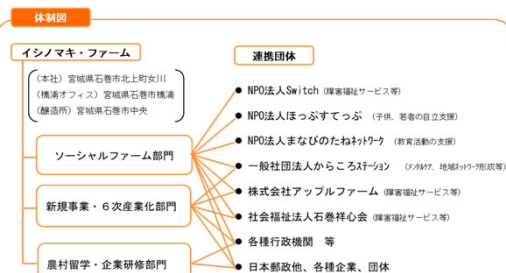
主力商品

(農作物)ホップ、さつまいも
(加工品)クラフトビール、干し芋、ホップソルト

特徴的な取組

6次産業化、中間支援、ソーシャルファーム等

体制図



住所:宮城県石巻市北上町女川字泉沢13番地

TEL:0225-25-4144

Mail:contact@ishinomaki-farm.org

URL:https://ishinomaki-farm.com/

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	
その他	○

成果

6次化商品等売上高

305万円(R2)
→6,015万円(R6)

就労訓練者数

130人(R2)
→200人(R6)
※中間的就労支援の
体験延べ人数

農地面積

0.99ha(R2)
→1.1ha(R6)

体験・視察者等数

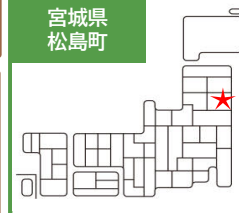
90人(R2)
→400人(R6)

- 農業だけに留まらず、一般企業へも雇用。障害者1名、触法者1名、ひきこもり等6名が雇用され、計8名のうち3名はイシノマキ・ファームが雇用。
- 農業を通じた交流として、ホップ苗株植えのボランティアイベントやホップ収穫体験ツアー、企業等研修受入を実践し、これまでに延べ1,200人以上が参加。
- 地域住民が大切にしてきた農地を守って継承していく仕組みを困難を抱える若者と一緒に開拓していくことで、地域に貢献。

就労継続支援A型事業所松島のかぜと連携することで、障害者が地域と繋がりをもって働ける場を創出するとともに、一般就労への移行を支援しており、様々な地域活動にも参画することで地域の活性化にも寄与。

農林水産業経営体

宮城県
松島町



きっかけ

H25年

松島町の磯崎地区は、高齢化と離農が進み著しく農家数が減少、農地や用水路等の地域資源の維持も困難になった状況から、農作業従事者として15名の障害者を就労させたのがきっかけ。

基本情報

設立:H17年 / 農福連携取組開始:H25年

取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R2~R4)
認定農業者(初回認定H18年)

概要

主力商品

(農水産)水稲、かぼちゃ、さつまいも、生かき
(加工品)かぼちゃ・さつまいものペーストパック

特徴的な取組

減農薬栽培、酒米造りプロジェクト、水福連携、6次産業化

人を耕す

- 労働時間は、集中力確保のため1日4時間(8時~12時)、週休2日制を原則としている。
- 時給を県規定の最低賃金としており、海上作業には海手当(時給50円増し)を支給している。
- これらの取組により、利用者は、月額6~8万円の工賃を得ている。

地域を耕す

- 地域の農業組合、漁業組合、中小企業からの委託業務を請け負い、担い手が不足している地域の農業漁業労働力の確保、経営の安定に貢献し、地域産業の衰退の歯止めとなっている。
- 松島手櫓を元気にする協議会と連携し、花火大会(10月)を開催し、野菜などの出店・販売。
- 松島大漁かき祭り(11月)ほか地域のイベントに積極的に参加。

未来を耕す

- 松島酒造りプロジェクトにより「特別純米酒いやすこ」を共同生産する活動をしており、水田3haでひとめぼれを減農薬栽培し原料としている。
- 各旅館から「米・野菜・生かき・海産物」の直接受注を受けるようになり経営も安定化し、旅館側も新鮮な食材の提供に満足している。

取組

成果

体制図

農業法人
有限会社
F・F磯崎

連携

一般社団法人
松島のかぜ
(A型事業所)

企画運営班
農業作業班
水産作業班
農産加工班

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所:宮城県松島町磯崎字磯崎101

TEL:022-355-1136

Mail:santyokuya@gmail.com

URL: https://ffisozaki.jimdofree.com

平均工賃月額

6万円(R2)
→8万円(R6)

障害者数

18人(R2)
→20人(R6)
【定員20人】

売上高

102百万円(R2)
→126百万円(R6)
【農業+水産】

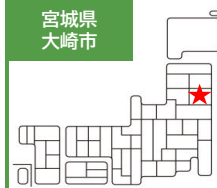
農地面積

58.5ha(R2)
→68.9ha(R6)
【田畑】

- 避難訓練、地域清掃、環境美化活動を定期的に行い、地域貢献やつながりを大切にしている。
- 地元の保育園や役場と連携して、サツマイモの苗植えと秋の収穫体験を幼児とともにに行い、畑の提供、その他サポート役として参加。
- 利用者の絆づくり、慰安のため、新年会、研修旅行、地域交流イベント、忘年会を恒例行事として実施。利用者にとって良い社会勉強の場となっている。

事業所開所時に養豚場の一部業務を受託し、養豚業を開始。その後、廃業予定であった別の養豚業者から事業継承を受け、現在は母豚230頭、育成頭数2,200頭の一貫生産を実施し、地域の畜産業の維持に貢献。

福祉事業所

宮城県
大崎市

きっかけ

H
26
年

事業所開所とともに生活協同組合あいこーぷみやぎが運営する養豚場の一部業務委託を受け養豚業を開始し、平成30年に全面委託。

人を耕す

- 利用者だけで作業に取り組むことも出来てきており、作業スピードも向上。
- 一つ一つの作業の工程を細分化し、障害特性に合わせた作業内容を提供。

地域を耕す

- 令和4年に廃業予定であった養豚事業者から事業継承を受け、養豚業を引き継いだことで、地域の畜産業の維持に貢献。
- 取り組みを地域にも知ってもらうため、年1回遠田地区の事業所が集まりお祭りを開催。
- 地域の農家や畜産業者と交流し、情報交換などを含めた連携を図り、地域活性化にも寄与。

未来を耕す

- アニマルウェルフェアへの取組も開始。
- 同法人内や食品会社、学校給食から廃棄で出た食パン、地域の農業者からの飼料米等を活用し、飼料を製造。地元の小学校への豚肉の供給スタート(10月～)

基本情報

設立:H14年 / 農福連携取組開始:H26年

※ひなた農場での農福連携開始はR4

主な選定表彰:仙台市中央卸売市場食肉市場開設周年記念
枝肉共進会(48、49、50周年)優秀賞

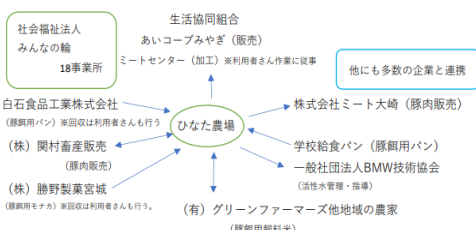
取組

成果

概要

主力商品
(農作物)豚肉

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

住所:宮城県大崎市田尻大貫北長根91

TEL:0229-87-8620

Mail:Wahawa-tajiri@minnanowa.org

URL:https://www.minnanowa.org/

平均工賃月額

35,000円(R5)
→37,313円(R6)

作業に関わる障害者数

4人(R5)
→5人(R6)

売上高

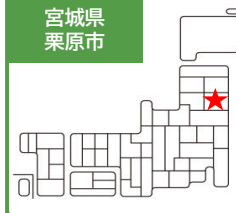
2億2,016万円(R5)
→2億5,736万円(R6)

- 月6万円の工賃を達成した利用者もいる。
- 利用者が豚の体調やケガなどいち早く気づき指摘するまでに成長。
- 利用者が農機具まで扱えるようになり作業の幅も拡大。

水耕栽培に取り組む中で、平成24年から障害者の雇用と施設外就労の受入れを開始し、令和6年には障害者就労施設を設立。地域の特選品である舞茸生産者からの事業継承等、地域農業の維持・発展にも貢献。

農林水産業経営体

宮城県
栗原市



基本情報

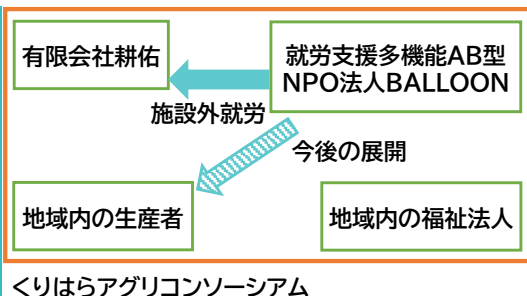
設立: H10年 / 農福連携取組開始: H24年
取得認証等: GGAP(H26年)、認定農業者(H10年)
農山漁村振興交付金(農福連携型)(令和7年度)
主な選定表彰: H30年未来につながる農業推進コンクール
東北農政局長賞 等

概要

主力商品

(農作物)サンチュ、舞茸
(加工品)加工食品

体制図



住所: 宮城県栗原市一迫柳目字平沢80
TEL: 0228-52-2140
Mail: kouyuu@ia9.itkeeper.ne.jp
URL: <https://kouyuu.net/>

きっかけ

H
24
年

行政や特別支援学校からの要望で、障害者雇用や施設外就労の受入れを開始。障害者を「チームの主力」として育成する仕組みが必要と考え、令和6年に障害者就労施設を設立。

人を耕す

- 利用者の能力と成果を公正に評価するため、時間ではなく作業量が直接工賃向上に反映される具体的な指標を持つ「ナビゲーションマップ」を独自に構築・改善・活用。
- 設立した障害者就労施設に、同社で障害者と共に働いてきた社員が移籍し、技術指導を担うことにより、利用者が仕事を覚えやすい環境を整備。
- 多様な人材を活かす発想で、健常者・障害者・外国人がチームで目標達成を目指す現場を実現。

取組

地域を耕す

- 令和7年9月現在、設立した障害者就労施設が、同社のサンチュ収穫の40%、定植作業の100%を担当。
- 廃業寸前だった地域の特産品である舞茸の生産者から事業を承継。
- 同社の水耕栽培による経営は安定収益と周年雇用で地域に貢献。

未来を耕す

- 同社の農福連携の取組を地域に波及させるために、農業法人、障害者就労施設、行政、地域の加工会社が参画する「くりはらアグリコンソーシアム」を令和7年9月に設立し、中間組織として、マッチング支援等の役割を担当。
- 「障害者が作った野菜」という販売でなく、「品質で選ばれる野菜」として、大手スーパーや飲食店に納品。

成果

雇用賃金

138万円(R2)
→339万円(R6)

施設外就労報酬支払

292万円(R2)
→415万円(R6)
※R6は設立した障害者就労施設への支払いも含む

売上高

1億7,246万円(R2)
→1億8,937万円(R6)

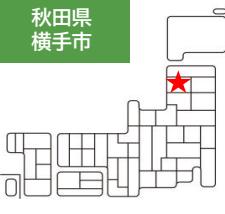
—

- 最初に、特別支援学校から受け入れた青年は、14年目の現在、健常者を含む新人パート職員に作業を教える立場として活躍。
- 設立した障害者就労施設では、「毎日通える」「仕事に楽しく取り組める」「一人で作業ができる」といった条件をクリアして2名が一般就労を実現。
- 「ナビゲーションマップ」の導入により、設立した障害者就労施設の利用者の作業スピードは平均1.8倍向上、できる作業種類は2倍に増加。

施設外就労等で障害者を受け入れ、AIを活用しながら工賃の向上を実践。ICT業界と農業界を繋ぐ農工福連携の実現を目指し、取組を実施。

農林水産業経営体

秋田県
横手市



基本情報

設立: H23年 / 農福連携取組開始: R4年
取得認証等: 農山漁村振興交付金(農福連携型)(R5~R6年)
認定農業者(R3年)
主な選定表彰: 令和7年ディスカバー農山漁村の宝 東北局奨励賞
令和5、6年秋田県種苗交換会菌床椎茸3等
令和2年JA秋田ふるさと枝豆優良賞

概要
主力商品
(農作物)米・菌床しいたけ・枝豆・玉ねぎ
(加工品)椎茸のうま煮、しいたけ入り焼きそば、乾燥しいたけ、いぶりがっこ、干芋
特徴的な取組
スマート農業、輸出、6次産業化、ユニバーサル農園 等

体制図
「就労継続支援B型イオ・グランデ条里」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「NPO法人太陽の園」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「就労継続支援B型フレッシュワーク」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「就労継続支援A型みらいワーク」で野菜キャラクターデザイン、販促グッズ制作
株式会社みずほライスで障がい者を正規雇用

住所: 秋田県横手市睦成字久保目110
TEL: 090-6567-5284
Mail: Kumagai-m.mzh@ace.ocn.ne.jp
URL: https://mizuho-akita.com/

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きっかけ

R4年
農福連携の工賃向上を目指し、前職のICT業界での経験や技術を活用して、成果を上げられる障害者雇用を実施。

人を耕す

- 施設外就労障害者に指示を行うリーダー職として、障害者正社員を採用。
- 誰でも同じ成果を上げられる装置や仕組みを導入することを考え、AIを活用した椎茸の選別機、菌床の湯さを顔文字で表示する機械の共同開発や、白米の自動計量パック機械等を導入。
- 人が集まる農福連携マルシェ用のログハウスなど、心地よい距離感で社内・社外ともに交流できる職場環境を整備。

取組

- 農福連携は小さな圃場で多品目を栽培。荒廃農地の有効活用で、いぶりがっこ用だいこん、雪ノ下にんじん、空心菜、など特色ある農産物を栽培。
- 横手北小学校や養護施設の子供たちと田植え体験、稲刈り体験を毎年行い、地域の子供たちや高齢農業者との農業交流を実施。

未来を耕す

- 損益改善を図るため、AIやセンサーを活用したスマート農業を実践。
- 障害者に合わせた仕事ができるシステムや仕組みを創り、成果を上げ、工賃向上を目指した農福連携による加工センターを運営。
- R7年産地立地型PJに採択され、椎茸規格外品を使った6次産業化の取組を実施。

成果

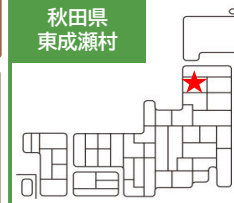
平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
13,000円(R4) →15,000円(R6)	10人(R4) →15人(R6)	1億200万円(R4) →1億6,300万円(R6)	60ha(R4) →75ha(R6)

- 毎朝朝礼を実施。会社理念である「生き辛さを抱えた方々を支えること」を伝え、障害者の方へ寄り添い、思いやる心を育成。
- 農福連携の取組に共感した首都圏の5つ星ホテルからお米購入の申し出があり、販路が拡大。
- R7に就労継続支援B型事業所で時給1,000円を開始。
- 就労継続支援A型事業所から農作業体験の受け入れを経て、正社員として雇用。
- R5特用林産振興支援事業に採択され「AI椎茸選別機」を開発。これにより障害者も訓練不要で選別ができる環境が実現。

高齢者施設において、機能訓練を兼ねた夏野菜栽培や天日干し米づくり、稲わら飾りの制作・販売を通じて、高齢者が最期まで生きがいを持って働ける場を実現。

高齢者施設

秋田県
東成瀬村



きっかけ

H25年

高齢者が「生き生きと暮らす」ためには、役割と働く場が不可欠であると実感。高齢者の多くが農業経験者であり、その力を活かすことができると考え、農作業を実施。

人を耕す

- それぞれの能力に応じて、無理なく作業できるように道具を工夫したり、高さを調整したり、職員がサポートしたりすることによって、利用者が可能な作業を実施。
- 圃場に行く前に体温・血圧測定を徹底し、水分補給と作業時間の調整を行う安全管理体制を構築。
- 『同じ釜の飯を』を合い言葉に、農作業を通じて共に生きる喜びを実感できる場づくりを実施。

地域を耕す

- 荒廃農地30aを再生し、雑草に覆われていた棚田を維持管理。
- 地域農家のトマトやリンドウ栽培への参加により、農家側の労力が軽減するとともに、高齢者側の役割を創出。
- 大潟村農家との連携で稲わら飾り(リース)を製造。天日干しし収穫した天日干し米「冥土の土産」はふるさと納税返礼品に登録。

未来を耕す

- 令和6年から隣接の美郷町の高齢者施設でも取組を導入。
- 自然農法・天日干しの希少性を活かし、付加価値を向上。
- 手植え・手刈り・手干しといった昔ながらの技術の継承が進み、地域に伝統を残す人材育成の場にも寄与。

取組

成果

基本情報

設立:H20年 / 農福連携取組開始:H25年

主な選定表彰:秋田県東成瀬村品評会(H29、H30)玄米の部第1位、ディスカバー農山漁村の宝(第12回/東北)

主力商品

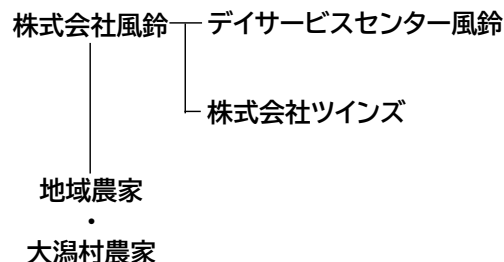
(農作物)米、トマト、リンドウ、山菜、夏野菜

特徴的な取組

稲わら飾り(リース)製造、環境保全型農業、特別栽培農産物

概要

体制図



受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

住所:秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字長瀬51番

TEL:0182-47-3522

Mail:fengling51@navy.plala.or.jp

URL:http://higashinaruse.jp/

平均介護度

2.1(R2)
→2.0(R6)
※利用者のうち要介護認定者の
介護度を平均した値

夏野菜・山菜の販売額

5万円(R2)
→10万円(R6)

米の販売額

0円(R2)
→7万円(R6)

稲わらリースの販売額

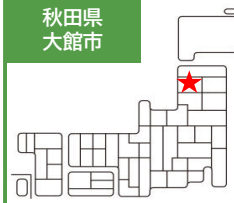
0円(R2)
→9.6万円(R6)

- 介護が必要になり、家に引きこもっていた80代女性が、当初断固拒否していたこの農を通したデイサービスを受け入れ、『ここに来ることが唯一の楽しみだ』と1年後に発言。
- 介護職員と高齢者が目標を一つにすることで、他の施設ではあり得ないような会話が生まれており、施設内では一歩も歩かない高齢者が、農作業だと1人で歩こうとする等、利用者の生きがいづくり等に寄与。

施設外就労で障害者等を受け入れ、野菜等の農作業や、いぶりがっこの加工生産など、年間を通じて仕事を創出。障害者の自立支援に加え、共生社会づくりや農業・地域の食加工業の継承も目指して取組を実施。

農林水産業経営体

秋田県
大館市



基本情報

設立:R2年 / 農福連携取組開始:R2年

取得認証等:GIマーク(R2年)、認定農業者(R2年)

主な選定表彰:

概要

主力商品

(農作物)にんにく、大根
(加工品)いぶりがっこ、黒にんにく

特徴的な取組

地域の伝統食の継承・発展と地域活性化 等

体制図

就労継続支援B型事業所「比内ヒルズ・ふもとの家」に施設外就労で農作業・農産物加工を委託。「ふもとの家」に実習に来所する秋田県立比内支援学校の生徒や、地域の高齢者のボランティア、秋田県北の先進的な取組をするコメ農家・農業者などと有機的なつながりを構築。

住所:秋田県大館市比内町扇田字長岡45番地

TEL:0186-55-0460 090-3805-6685

Mail:fumosachi@gmail.com

URL:https://hinaihills.com/

きっかけ

R2年

認知症介護施設の在り方に感銘を受け、大館市でデイサービスを開設。地元農家から農作業やいぶりがっこ等の漬物加工業を学び、就労継続支援B型事業所「比内ヒルズ・ふもとの家」と農福連携を開始。

人を耕す

- 原料の生産から加工まで障害者の特性を活かし作業を切り分けることで、障害者それぞれの特性やスキルに合わせ、仕事を精査して割り振ることが可能に。
- 労働負担を軽減し安全性を図るため、機械化、合理化を積極的に推進。
- 農作業と加工を組み合わせることで、通年での仕事を創出。

地域を耕す

- 特別支援学校の生徒の実習受入や地域の高齢者の有償ボランティアでの受入により地域との繋がりを構築。
- 耕作面積が拡大し荒廃農地の解消に繋がっているほか、伝統である「比内ぜり」の復活などにより地域農業の維持に貢献。
- 安定して高品質のいぶりがっこを生産できるようになったことや商品開発を行っていることから、農業加工事業全体で生産量と収益が向上。
- 地元の農家とのネットワークを活かすことで、高齢農家の生きがいの創出に寄与。

未来を耕す

- 秋田県北で新たな米の品種開発に携わり、農福連携で米作りの継承者とし次世代へ継承。
- 種から育てる伝統的な農法と、古来から地域に伝わる製法を継承し、いぶりがっこの生産を行い、産直サイト等で販路を拡大。6次産業化をs樹住めている。

取組

成果

平均工賃月額

16,746円(R2)
→28,966円(R6)

障害者数

59人(R2)
→138人(R6)

農地面積

0.2ha(R2)
→1ha(R6)

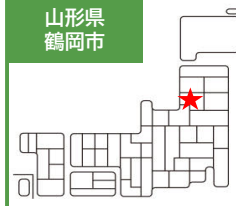
作業委託金額

99万円(R2)
→450万円(R6)

- 運営するカフェでお客さんに前述の「比内ヒルズ通信」を配布、口頭で農福連携の重要性を伝えることで、地域の人たちの障がい者理解の促進、農福連携の認知度向上にも貢献。
- パッケージの裏面やHP、SNSの掲載情報から農福連携の取組農に賛同して継続購入をする消費者も多く、農福連携商品を通じて障害者の社会参画・就労支援への理解が促進。農福連携産品であることが他社商品との差別化になっている。
- 障害者が一般就労するケースも毎年複数出ており、障害者の自立に貢献。

多機能型事業所「作業所月山」では、知的障害者を中心とする施設利用者39名が、月山短角牛の飼育、県特産の「だだちゃ豆」及び果樹の栽培のほか、ジャム製造等の加工業にも取り組む。

福祉事業所

山形県
鶴岡市

きっかけ

H
16
年

高齢化による耕作放棄地の増大や放置牧場と荒れた草地即ち中山間地の荒廃を憂い、この土地利用により障害者が土と牛に触れ合うことによる効果を考えたことがきっかけ。

人を耕す

- 農薬を使わず除草も手作業で実施し、畜舎管理棟は十分な休憩スペースを確保、トイレ、湯沸かし室、シャワーがあり、健康管理と作業環境に留意している。
- 月山短角牛は冬里・夏山方式により放牧場でゆったりと牧草と野草を食べ、冬期間は完全国産牧草のみの飼料を障がい者の手により食べ、成長している。
- (株)スターゼン様からサステナブル牛として高評価を得、高値で一頭売りしている。

地域を耕す

- 「月山夏祭り」を開催し地域の人や取引のある業者、養護学校を招待し、利用者とカラオケ大会やビンゴ大会などを行い地域住民との交流により理解と親睦を深めている。
- 鶴岡市から生活困窮者就労準備支援事業と引きこもりステーション事業を受託し、生き辛さ・生き難さを抱えてる人達を農業分野での就労に導く仕事と共に引きこもり支援を行っている。

未来を耕す

- 北里大学獣医学部と連携し共同研究をしてきた成果を生かし、人口減少から荒れる里山を短角牛により保全し、耕作放棄地に牧草の種を蒔きグラスサイレージ採取で人里へのクマ出没を抑制、自然と人間の共生を図る。
- 自前で手入れを行いながら無農薬・無化成肥料の「有機JAS認証」に改良後、放牧を開始。この牧場と農畜産物事業全体を「月山ドリームファーム」と命名。

基本情報

設立:H15年 / 農福連携取組開始:H16年

取得認証等:認定農業者(H29)、ノウフクJAS(R3)

概要

主力商品

(農作物)月山短角牛、落花生、庄内柿、だだ茶豆等
(加工品)ジャム等

特徴的な取組

配合飼料を使わない完全国産牧草だけの給餌

取組

成果

平均工賃月額

26,004円(R2)
→23,919円(R6)

障害者数

33人(R2)
→33人(R6)

売上高

707万円(R2)
→1,211万円(R6)

農地面積

1.38ha(R2)
→2.21ha(R6)
※庄内町放牧場
草地44.1ha除く

- 障害者が県の特産品である「だだちゃ豆」の生産に関わることで、県特産品の生産量の維持に貢献。
- 農畜産機械購入のクラウドファンディングなどがマスコミに多く取り上げられ、域外の通所施設利用者からの問い合わせがある。働く領域拡大・職業選択の幅拡大。

体制図

社会福祉法人
月山福祉会多機能型事業所
「作業所月山」多機能型事業所
「スロークワーク新町」放課後等デイサービス・
体験事業「アトリエ」相談支援室
「一柳」

受け入れている者

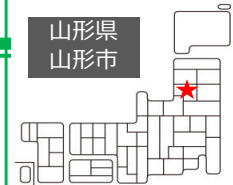
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所:山形県鶴岡市中野京田字壱柳4-1

TEL:0235-24-8451

Mail:ichiyana@sea.plala.or.jp

URL:https://www.gassanhukusikai.com



降雪地帯の条件不利地において農福連携を実施し、山形伝統野菜の生産・加工など、高付加価値商品の生産を行うことで、障害者の就労機会の確保、賃金・工賃の向上等を実現。

基本情報

- 所在地：山形県山形市
- 団体名：有限会社内外ファーム
蔵王の恵農場
- 選定表彰：－
- 主力商品：パプリカ、青菜、チョロギ、赤根ほうれんそう、凍み大根 etc.
- 取得認証等：認定農業者



取組の概要

- 平成18年に有限会社内外ファームを設立し、標高600mに位置する「蔵王の恵農場」で、高原野菜の栽培を開始。その後、就労継続支援A型事業所及び、B型事業所を設立。
- 就労継続支援A型事業所では、利用者14名を雇用し、農作業の全てを障害者が実施しており、山形伝統野菜の生産・加工を行うなど地域資源の維持に貢献。
- 就労継続支援B型事業所は、地域全体が高齢化や人口減少で労働力の確保が困難な中、地域周辺農家の作業受託を行うなど荒廃農地の発生防止にも貢献。



特産野菜の原料生産



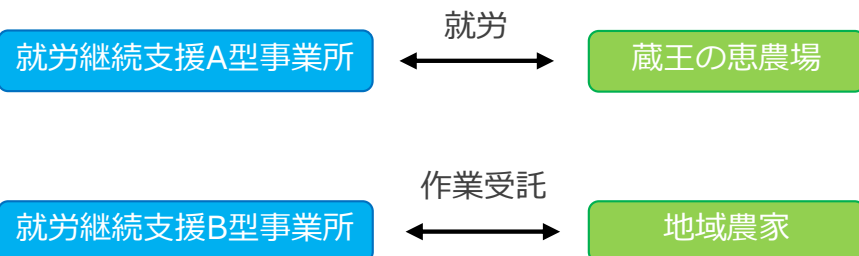
さくらんぼ農家の作業受託



県外中学の農業研修旅行

体制図

有限会社内外ファーム



取組の成果

- 高品質野菜の安定した生産・提供による信頼から、周辺農家からの耕作依頼や市内の農産物加工場からの原料生産依頼が増加し、利用者のモチベーション向上に繋がっている。
- 積極的に農作業を受託し、農作業に従事した障害者の延べ数は、2倍以上に増加（平成30年度 1,642名から、令和3年度 3,531名（県全体の29.5%））。11軒の農業者から作業委託があるなど、障害者の自立に貢献。

所在地 ▶ 山形県山形市小白川町5-13-24

連絡先 ▶ TEL : 023-674-9111 E-mail : syamada@naigaifarm.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.naigaifarm.jp>

【取組のプロセス】

平成18年

降雪地帯の中間農業地域における農業の安定継続には、高付加価値商品づくりが不可欠

きっかけ

農業を営む中で、就業先を探している障害者支援施設と協議する機会があり、じゃがいもの収穫・選別作業を2年間実施してもらった結果、障害者の就労が可能と判断したことから農福連携の取組を開始

有限会社内外ファームを設立

- 平成18年4月、有限会社内外ファームを設立。「お客様に美味しい野菜を、安全、安心にお届けする」を目標に掲げ、標高600mに「蔵王の恵農場」整備し、高原野菜の栽培を開始。
- 障害者にじゃがいもの収穫、選別作業に2年間従事してもらった結果、障害者の就労が十分可能であると実感。
- 平成21年8月より障害者の雇用を開始。



障害者施設が生産したふるさと納税返礼商品

平成26年

労働集約型の畑作農業を継続的に実施

就労継続支援A型事業所を設立

- 平成26年4月、『働く誇り』『食づくりの楽しみ』『届ける喜び』を理念に、自然豊かな環境において野菜作りを行うことで、障害者の自立を推進。
- 近年では周辺農家からの耕作依頼や市内の農産物加工工場から原料生産依頼を受けるほど技術が向上。



大豆農家への除草作業支援

平成28年

山形県農福連携推進センターのマッチング支援を活用

就労継続支援B型事業所を設立

- 安定した生活を送るためのリズムやスキルを身につけて、就労に向けた様々な作業を経験することで、働くことに自信が持てるよう積極的に推進。
- 安定した農作業の増加により、利用者の賃金向上を実現。



養鶏業者への支援

今後の展望

共生社会の実現を目指して！

- 農業生産だけに特化した農業経営から、地域全体から支えられ支えることができる新たな農業形態を目指す。
- 障害者が、生涯の職業として活躍できる農業経営を目指す。
- 地域各所で行われているマルシェに積極的に出店し、農福連携の普及啓発を推進。

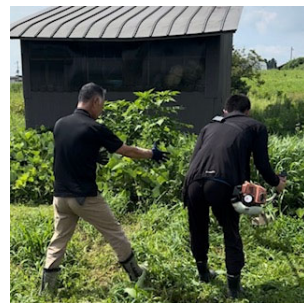
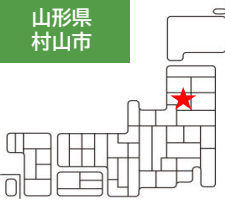


マルシェへの出店

除草剤を使用せず無化学肥料で食用バラを栽培し、施設外就労を活用して生産規模を拡大し、花きとして初となるノウフクJASを取得。農福連携に取り組む食用バラ農家の育成を実施。

農業経営体

山形県
村山市



基本情報

設立: H23年/農福連携取組開始: R4年

取得認証等: ノウフクJAS

概要

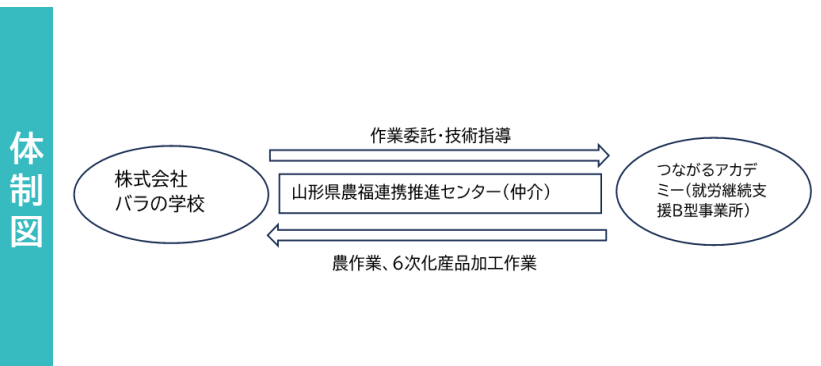
主力商品

(農作物)バラ

(加工品)食用バラ加工品

特徴的な取組

有機農業、スマート農業



きつかけ

取組

未来を耕す

R4年

山形県での就農直後に、バラの作業時期と地域特産のさくらんぼの収穫時期が被り、労働力の確保が困難に。市の紹介で施設外就労の受け入れを始めたところ、障害者の丁寧な仕事ぶりを目の当たりにし、本格的な受け入れを決め、加工作業の依頼を開始。

人を耕す

- 障害者のスキルアップにより、工賃が時給換算で前年比10%増になり、就労継続支援B型事業所への平均月間支払額も114,951円に上昇。
- スマート農業等の機械操作や、安全管理の講習会を実施し、障害者が機械作業で活躍。作業ごとにリーダーが出るなど技術が向上。

地域を耕す

- 地域農業の担い手として研修会に登壇し、施設外就労の受入れにより規模拡大したことを発信。
- 特別支援学校からの実習生の受け入れを実施。
- 村山市で農福連携が広がり、障害者の受け入れが進む。

未来を耕す

- 除草剤を使用せず無化学肥料での食用バラの栽培を開始。施設外就労により、障害者が90%以上の農作業を担い、経営が安定。
- 食用バラ農家の育成にも力を入れており、循環型無農薬露地栽培・農福連携・6次産業化・スマート農業による経営モデルを全国へ発信。

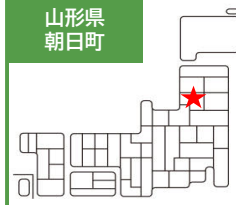
成果

事業所への年間支払額	施設外就労年間のべ人数	農業収入	農地面積
2千円(R4) → 530千円(R5)	26人(R元) → 728人(R5)	7,400千円(R元) → 47,240千円(R5)	16a(R元) → 50a(R5)

- 花きとして全国初となるノウフクJAS取得によりエシカル消費を意識する購買者に訴求し、収益が改善。
- メディアで取り上げられたことで、高級レストランなどからの引き合いが増え、販路が急速に拡大。
- 全国から視察が増加し、「農福連携×食用バラ」の認知が広がったほか、農福連携による食用バラの栽培を障害者就労施設5社が開始。

ゲストハウスと農園で国内外からニートや不登校で苦しむ子供や青年・社会人、更には認知症高齢者を受け入れ、それぞれの能力に応じた作業分担で働き場所の創出と経営の安定化に寄与。

農林水産業経営体

山形県
朝日町

きっかけ

R4年

農業を通じて親族が不登校から社会復帰を果たした経験から、ニートや不登校で苦しむ子供や青年・社会人を預かり、農業で元気にさせたい思いを持ち、国内外から受入れを開始。

人を耕す

- 農園と農家民宿部門に分けて、青年の個性・得意を活かして自信が持てるような仕事に配分し、個人の能力に合わせて賃金を決定することでやる気を促進。平均工賃は県平均を上回る。
- 軽度認知症の高齢者を2名を雇用し、指導役等を担ってもらうことで責任感が生まれ、やりがいをもって農作業に取り組めるように工夫。

地域を耕す

- ニートを受け入れたことで、労働力不足が解消されたほか、障害者目線で作業を見直し、効率化が図られたことで生産性が向上し、障害者以外の農作業の効率化にも寄与。
- 労働力不足が解消されたことで、近隣の高齢農家の農地や荒廃農地を新たに借り受けて規模拡大し、農地の継承と地域農業の維持に貢献。
- だいちん農園CAFÉとして、都市でのマルシェに参加し生産物の販売を実施。

未来を耕す

- 農業とゲストハウスで、高齢者やニート・不登校等の障害のある青年の活躍の場を創出。
- ゲストハウスの取組や料理がテレビや新聞で取り上げられ、県外や海外からの視察が増大。
- 障害の種類や度合いに適した作業選定や治具の開発をユニバーサル農業として推進。

取組

成果

平均工賃月額

37,000円(R4)
→58,000円(R6)

障害者数

4人(R4)
→4人(R6)

農業収入

1,289万円(R4)
→1,450万円(R6)

農地面積

9ha(R4)
→3.5ha(R6)

- 近隣の農業法人でも当社を参考に障害者の雇用を始めており、地域全体で障害者を受け入れる動きが見受けられるようになった。
- 農福連携の取組が知れ渡るに伴い農業体験の希望者が増加し、販路が拡大。
- 地域で食育や郷土料理のイベントも開催しており、若者が多く集まる機会が増えたことで地域活性化に寄与。

基本情報

設立: H29年 / 農福連携取組開始: R4年

取得認証等: 日本ファームステイ協会品質認証(R6年)、認定農業者(H23年)、6次産業化認定事業者(H23年)

主な選定表彰: 第17回オーライニッポンライフスタイル賞 等

概要

主力商品

(農作物)米・麦・大豆、野菜、果樹
(加工品)加工食品

特徴的な取組

自然農法、6次産業化、輸出、ゲストハウス

体制図

ゲストハウス連携(夢の修学旅行・不登校により学校の修学旅行に参加できない児童・学生を預かり農業体験・果物狩りを体験しその収穫物を両親に手紙を添えて送る夢の修学旅行の実施サポート)

山形県里親協議会に所属し、単発のお預かりや宿泊体験の協力

ホームページより、ニートや不登校の子供を抱える親から相談を受け、おためし農業就業体験を実施

住所: 山形県西村山郡朝日町大字玉ノ井丁202

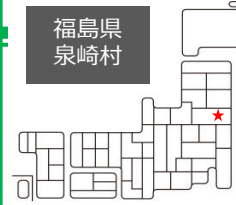
TEL: 0237-68-2301

Mail: info@daichan-farm.com

URL: https://daichan-farm.com/

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	



精神障害を中心とする施設利用者が、養鶏のほか野菜栽培、加工、農産物直売所の運営などを通年で実施することで、農業を職業訓練の場、働く場として活用し、障害者の一般就労へ向けた訓練や支援に取り組む。

基本情報

- 所在地：福島県泉崎村
- 団体名：社会福祉法人 こころん
- 選定表彰：
 - ・平成29年 ディスカバー農山漁村の宝 アクティブ賞（主催：農林水産省）
 - ・平成29年 ふくしま地産地消大賞（主催：福島県）
 - ・令和2年 ふるさとづくり大賞（主催：総務省）
 - ・令和2年 ノウフク・アワード2020優秀賞（主催：農福連携等応援コンソーシアム）
- 主力商品：鶏卵（ここたま）、たまねぎ、菊芋、さやえんどう、オクラ etc.
- 取得認証等：JGAP

取組の概要

- 利用者の就労の場として農産物直売所を運営する中で、離農者が増加していることを知り、荒廃農地や高齢のために継続が困難となった養鶏場を引継ぎ、野菜や水稻の栽培、養鶏を実施。
- 平飼いによるストレスの少ない鶏が産む、殻が固く白身の盛り上がった新鮮卵「ここたま」を販売。県内外のマルシェに参加し、販路開拓・拡大に取り組む。
- ①こころんファーム（農業、養鶏）②こころん工房（スイーツ）③こころや（直売所）④C o c o r o y a c a r（移動販売）など生産・加工・販売までを、こころんの就労支援事業（6次産業化）として展開。
- 幼稚園児等を農業体験で受け入れ、障害者と触れ合いながら、農作業の楽しさや大変さを体験する機会を提供。また、買い物に困っている高齢者の住む団地等に、移動販売を実施。



直売所・カフェこころん



平飼い養鶏場

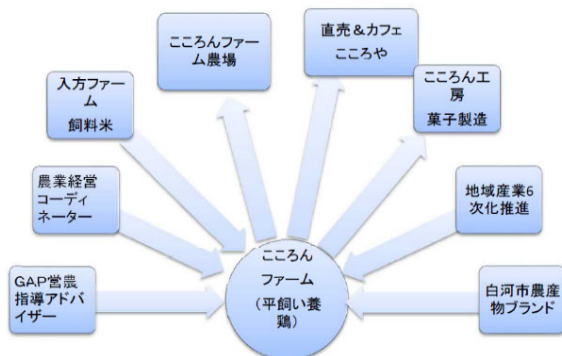


畑で活躍する利用者



移動販売

体制図



取組の成果

- 施設利用者は、農業を通して体力や忍耐力が身についたほか、地域の人々と触れ合う機会が多くなることで家族間のトラブルが減少し、明るさを戻す。また、直売所の売上げの増加（JGAP取得により、その食材で作る直売所・カフェのランチが好評）に伴い、利用者の所得も向上。
- 農産物の売上 1,100万円（平成27年）→ 2,183万円（令和3年）→ 2,227万円（令和4年）
- 直売所の売上 5,779万円（平成27年）→ 6,852万円（令和3年）→ 6,323万円（令和4年）

所在地 ▶ 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字下根岸 9

連絡先 ▶ TEL：0248-54-1115 E-mail：izumizaki@cocoron.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.cocoron.or.jp>

【取組のプロセス】

平成16年

きっかけ

利用者の一日の生活のリズムを整えることや、食べることの大切さを再認識する必要があると考え、農業や直売所など、食に関する事業を実施

- ・ NPO法人「こころネットワーク県南」を設立【平成16年～】
- ・ 「生活支援センターこころん」を開設【平成16年～】
- ・ 障害者自立支援法の就労支援事業を開始【平成18年～】

平成18年



「直売所・カフェ こころや」を開所

- 野菜や加工品の安心や美味しさにこだわった同直売所は地元のこだわりのお店として定着。
- 地域の農家や加工品の生産者、取引業者、消費者など、多くの地域の人々とのつながりが増え、障害者が自然な形で地域に参加できる直売所となった。



「直売所・カフェこころや」の新鮮な農産物

平成22年

こころんファーム開始

- 直売所を運営する中で、地域で離農者が増加していることを知り、荒廃農地を借り受け、無農薬、無化学肥料栽培の自然循環農業を開始。
- 施設外就労として、収穫の終わったトマトハウスの片付けや、果樹園の剪定後の畑の片付け作業などにも従事。



「こころんファーム」自然栽培米

平成23年

こころん工房事業開始

- 農場の野菜、卵を活用した6次産業化に取り組む製菓工房として事業を開始。
- ジャージー牛のミルクを生産する牧場と連携するなど、こだわり抜いたお菓子を生産。
- 平成23年、NPO法人から社会福祉法人へ移行。

こころんファーム養鶏場「平飼い」へ移行

- 地元の米を中心に遺伝子組み換えでないポストハーベストフリートウモロコシや、牡蠣殻などを自家配合して使用。
- 最新の設備を導入し、自然の中で歩き回れる平飼いを実施することによって、鶏にとって理想的な環境を創出。
- 鶏舎の中にもみ殻やおがくずを撒き、自然発酵させることで、完全堆肥として使用。令和元年にJGAP取得。



「こころんファーム」ここたま燻製卵（くんたま）

平成30年

農福連携は社会の資源

- 福祉（障害者福祉）＝ 障害者の生活上の課題を解決していくことの支援。
- 農場における米の品質向上と生産性の向上。
- 新しい6次産業化商品の開発。
- 料理教室などのワークショップの開催。
- 利用者の自立支援、地元経済の活性化。

今後の展望

店舗経営を模索

高齢化の進む団地や仮設住宅などへの移動販売を実施

企業と連携し商品の開発と販売

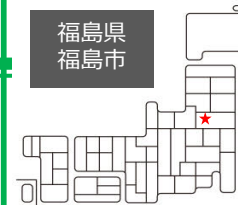
6次産業化商品の推進

平成29年農山漁村振興交付金を活用し養鶏場等のハード整備

平成30年 JGAP(農産物)を取得

令和元年 JGAP(畜産)を取得

農福連携の広がり新しい地域コミュニティづくり



農業体験を通じて、「将来の職業選択肢の幅を広げるための農業の魅力発信」や「農業体験という校外活動を通して食の大切さや流通などを総合的に学習するとともに、生徒の新たな可能性を広げる」ことを目的として、学校と農業法人・JA福島中央会が連携して農業体験を実施。

基本情報

- 所在地：福島県福島市
- 団体名：福島県立大笹生支援学校
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：長ネギ、長ナス
- 取得認証等：－



収穫するナスの大きさの説明

取組の概要

- JA福島中央会より、「将来の職業選択肢に農業も入れてもらうための農作業体験会に協力してほしい」との依頼があり、令和2年度より活動を開始（令和5年度で4年目）。
- 農作業体験会で生徒が収穫、包装した長ねぎとなすの一部をJAふくしま未来農産物直売所で販売を実施。
- 農業高校の生徒が来校し、「クリーン活動班（主に清掃の仕方を学習する作業学習班）」の生徒と共に農業高校の生徒が栽培した花苗を校内へ植える活動を実施。また、「クリーン活動班」が農業高校や地域の福祉事業所へ出向いて、清掃活動を実施するなど、地域との交流を積極的に図っている。

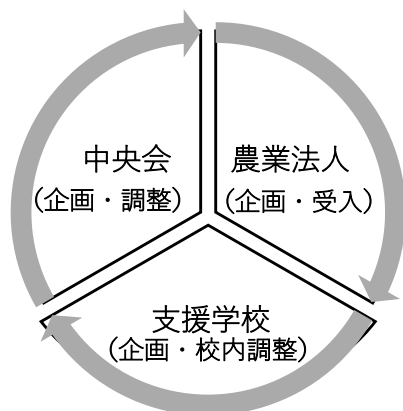


野菜結束機の体験



スコップを使っでの
ネギの収穫

体制図



取組の成果

- 野菜の収穫から調製作業を体験することを通し、生徒の農業への興味・関心が高まるとともに、卒業後に農作業を主に実施している福祉事業所の利用を希望している生徒にとって事前に農業を知る機会となっている。
- 体験会では、JA職員や農業者と生徒がやりとりする場を多く設定することで、特別支援学校の生徒の能力や障害への理解を深めてもらうことにつながっている。

所在地 ▶ 福島県福島市大笹生字俎板山182番地の2

連絡先 ▶ TEL：024-558-8710 E-mail：ohzasou-sh@fcs.ed.jp

ウェブサイト ▶ <https://ohzasou-sh.fcs.ed.jp>

【取組のプロセス】

平成13年

原発事故により屋外での栽培が不可能

平成23年
3月

土の入れ替えや放射能検査を行いながら狭い畑で栽培活動

令和2年
4月

JA福島中央会より農作業体験会への協力依頼

令和3年
4月

農作業体験会で生徒が収穫・包装した長ネギ・茄子を直売所で販売

今後の
展望

きっかけ

原発事故等の影響により、農業体験が難しい状況となっていたが、地元JAの提案により農業体験が再開

原発事故により、屋外での農作物の栽培ができない

- 学習活動の中で、じゃがいもやさつまいも、大根、白菜の栽培を実施していたが、東日本大震災による原発事故の影響により、屋外での農作物の栽培ができなくなった。
- 農作業は児童生徒にとって必要な学習と考え、土の入れ替えや収穫物の放射性物質検査などを行いながら、狭い畑でじゃがいもの栽培などを行っていた。

JA福島中央会から農作業体験会に対する協力依頼

- JA福島中央会から、「将来の職業選択肢に農業も入れてもらうための農作業体験会に協力してもらえないか」との依頼があり、農業体験復活の足掛かりとして事業を受託し、長ネギの収穫と収穫後の調製作業を実施。

農業高校とクリーン活動班の交流

- 農作業体験会で生徒が収穫・包装した長ネギと茄子をJAふくしま未来農産物直売所で販売。
- 農業高校の生徒が来校し、クリーン活動班（主に清掃の仕方を学習する作業学習班）の生徒と共に、農業高校の生徒が育てた花苗を校地内へ植える活動を実施。
- クリーン活動班が農業高校や地域の福祉サービス事業所等へ出向き、清掃を行い学習の成果を実践するなどの交流を実施。

特別支援学校生徒の農業への関心や周辺からの理解の促進

- 農作業体験を通して、学んだことを他の生徒に伝えることにより、農業への興味や関心を高めることにつなげる。また、進路選択の幅や社会に対する視野を広げることにつなげる。
- 農業関係者に、生徒が農作業に取り組む様子を見てもらうことで、特別支援学校の生徒の実態や作業能力等についての理解促進を図る。



バグシーラーの使い方の説明



地域施設の清掃作業



花植えを通しての農業高校との交流学習